

スーパーマーケット景気動向調査

2014年7月調査結果(6月実績)

(7月22日公表)

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1.経営状況:「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」

スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ① 前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で調査
- ② 前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より調査開始

2.カテゴリー動向:「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」

スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ① 前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で調査 ※2014年4月実績より調査開始
- ② 各カテゴリーの好不調要因についてのコメント ※2014年4月実績より調査開始

経営動向調査 DI(Diffusion Index)の算出方法

回答構成比(%)に、以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

【景況感調査】

1.景況感:「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ① 2~3か月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で調査
- ② 今後2~3か月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で調査

景況感 DI(Diffusion Index)の算出方法

回答構成比(%)に、以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0.0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会
一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ
tokei@super.or.jp

I. 調査結果概況

前月に続き現状判断に改善傾向続くも、見通し判断は横ばい推移

6月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DI 現状判断は49.1と前月から+1.9と引き続き改善が続いた。前月同様、現状、見通し判断共に全てのDIが前月比プラスとなっており、特に消費者購買意欲DI（現状判断）は、+3.3改善幅が大きかった。一方で見通し判断はすべて小幅な改善にとどまっており、やや現状判断との差が広がる結果であった。

経営動向調査では売上高DIが-1.4（前月比-1.9）とわずかにマイナスとなったものの、同様に収益DIは3.1（前月比-2.4）とプラスを維持している。これは、販売価格DIが10.1とプラス圏で安定して推移し、客単価DIも9.4となっていることが起因している。一方やや心配なのが来客数DIの動向であり、-11.2（前月比-3.5）と回復の兆しが見えていない。生鮮仕入原価DIや食品仕入原価DIにはやや落ち着きがみられるようになってきた。

現状判断の回復傾向が続き、再び50に迫る付近までの上昇をみせている一方で、見通し判断はほぼ横ばいで40台半ばの推移であり先行きに楽観できない状況である。

景況感調査



経営動向調査

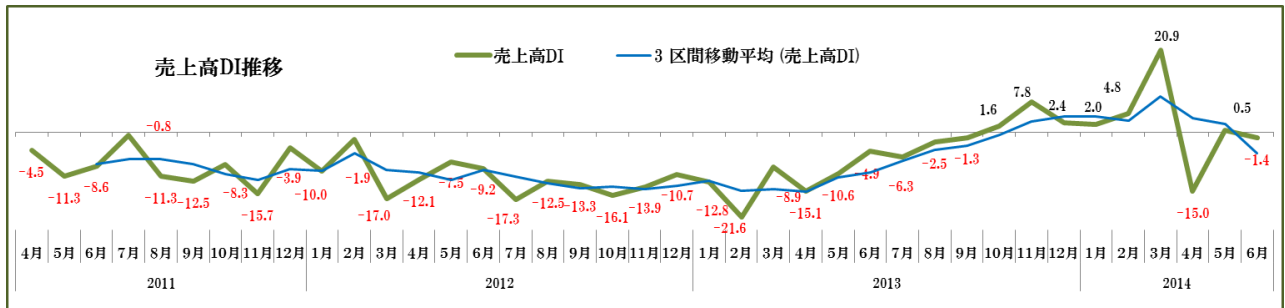
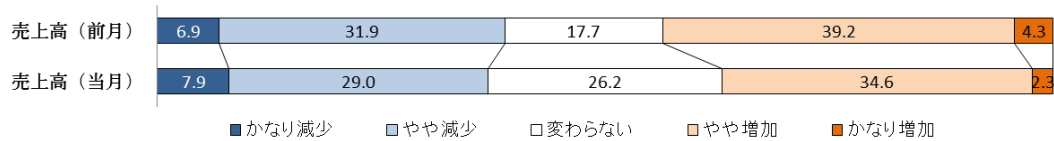


() 内は前月DIとの増減（赤字はDI減少）

I. 調査結果詳細 1. 経営動向調査

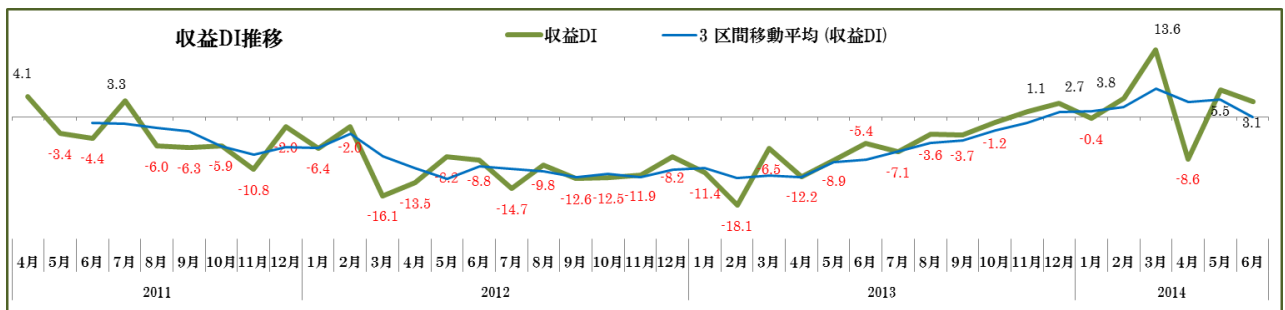
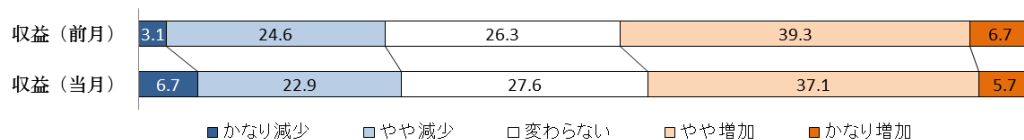
①売上高 DI

消費税の影響は落ち着きを見せるもわずかに下落



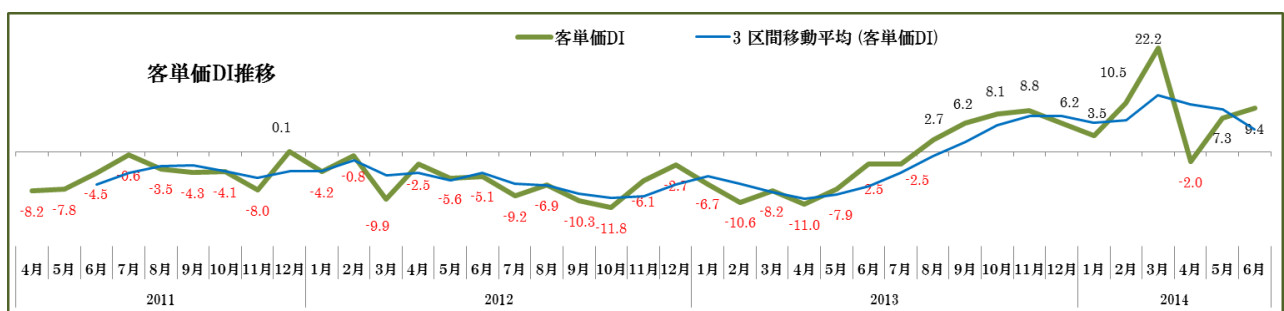
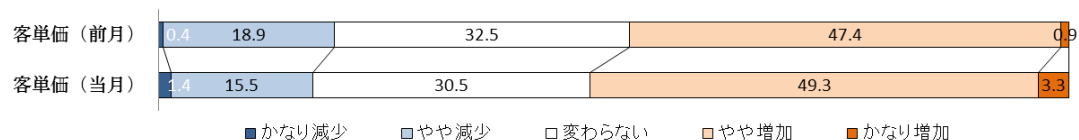
②収益 DI

小幅に下落もプラスを維持



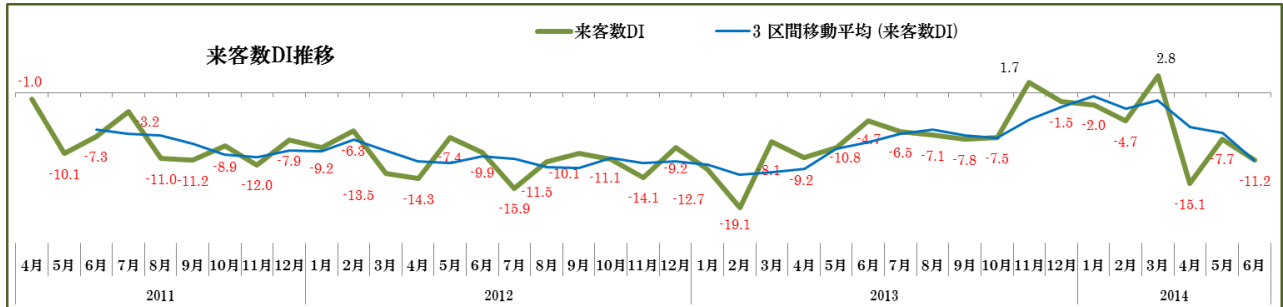
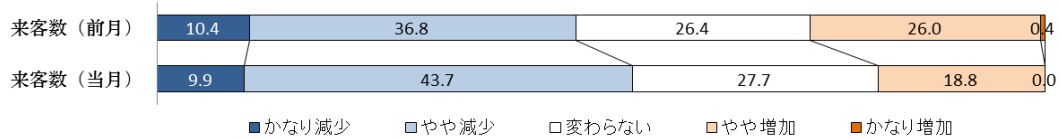
③客単価 DI

小幅に上昇しプラスを維持し回復基調



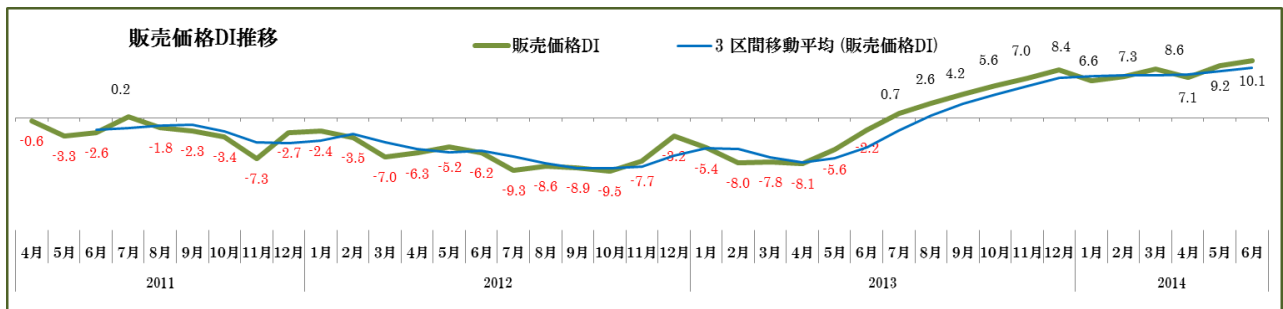
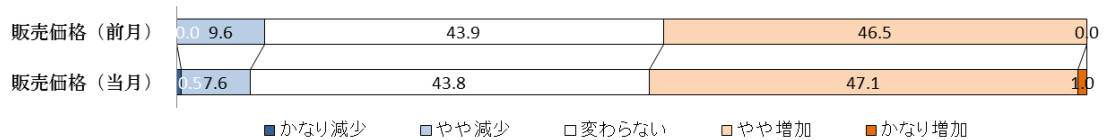
④来客数 DI

回復の勢いは弱く、再び下降傾向



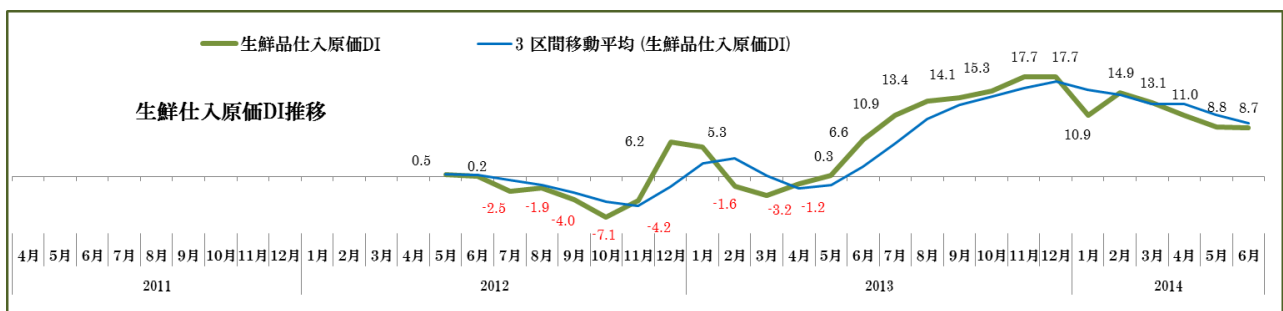
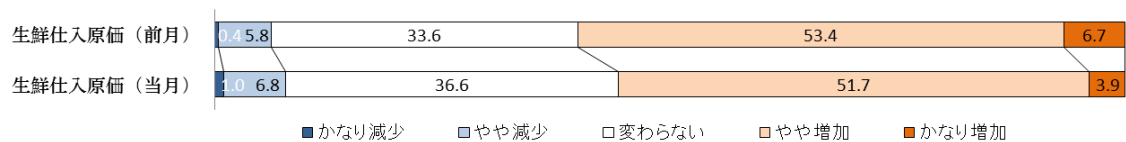
⑤販売価格 DI

引き続きプラス圏を維持しており、高水準で横ばい傾向



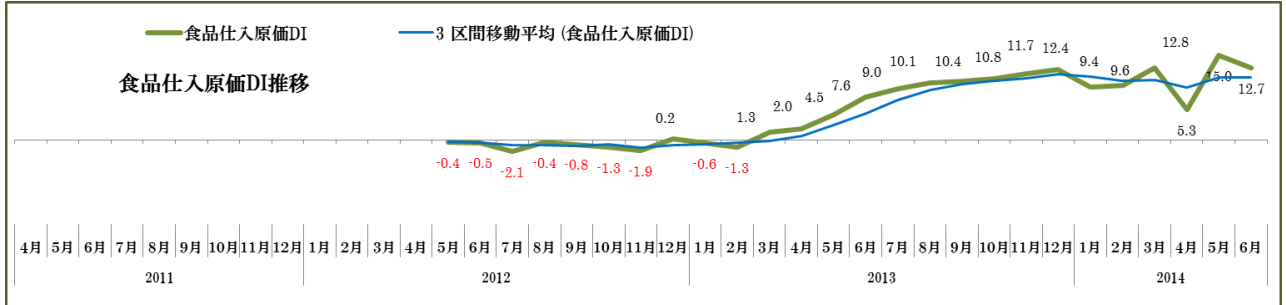
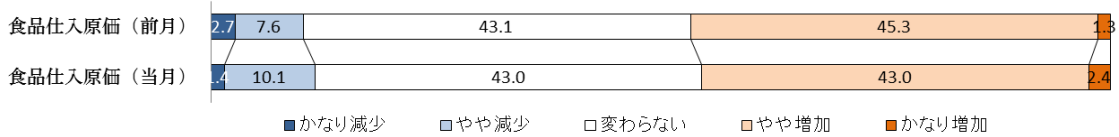
⑥生鮮仕入原価 DI

12月をピークにゆるやかに下降傾向



⑦食品仕入原価 DI

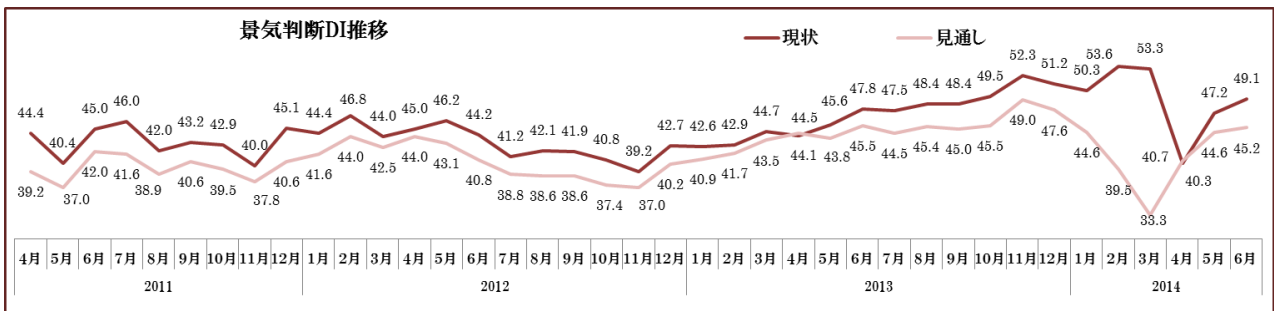
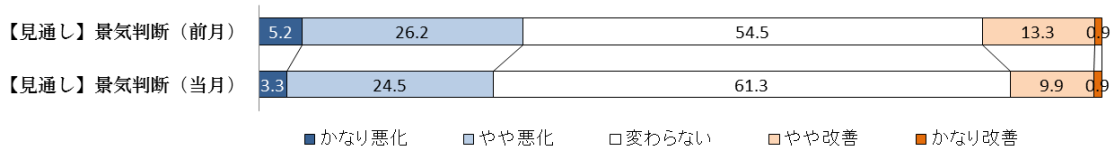
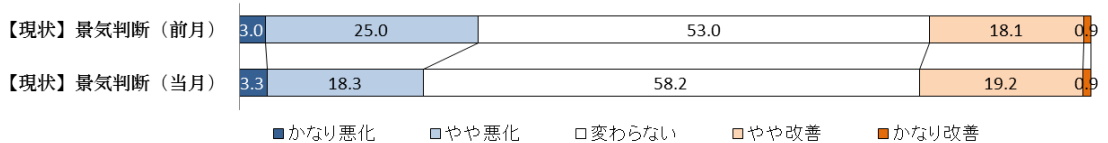
高水準で横ばい推移



2. 景況感調査

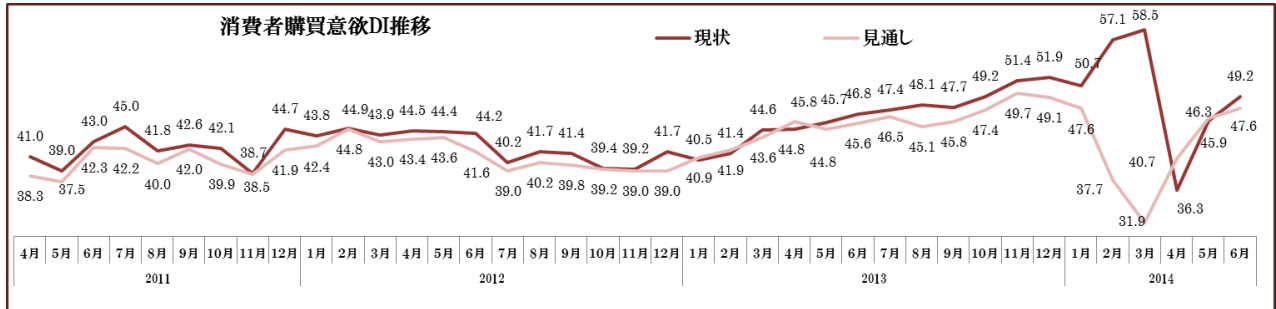
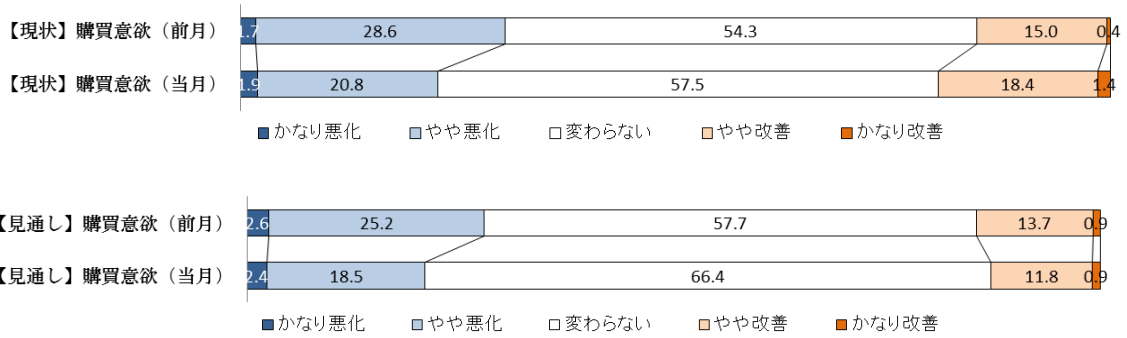
①景気判断 DI

現状判断は改善続く、見通し判断は小幅な改善



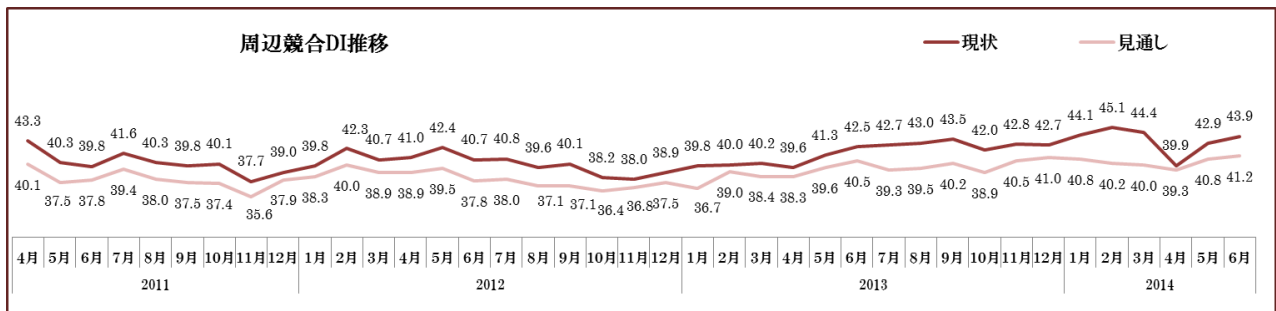
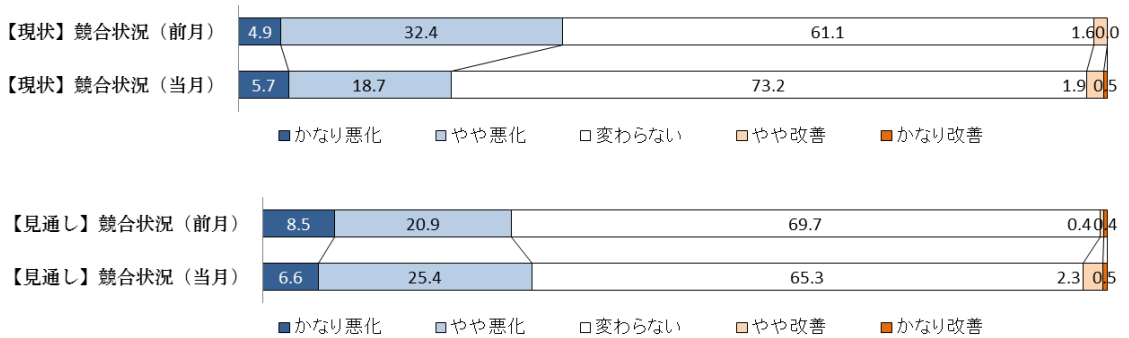
②消費者購買意欲 DI

現状判断は改善続く、見通し判断は小幅な改善



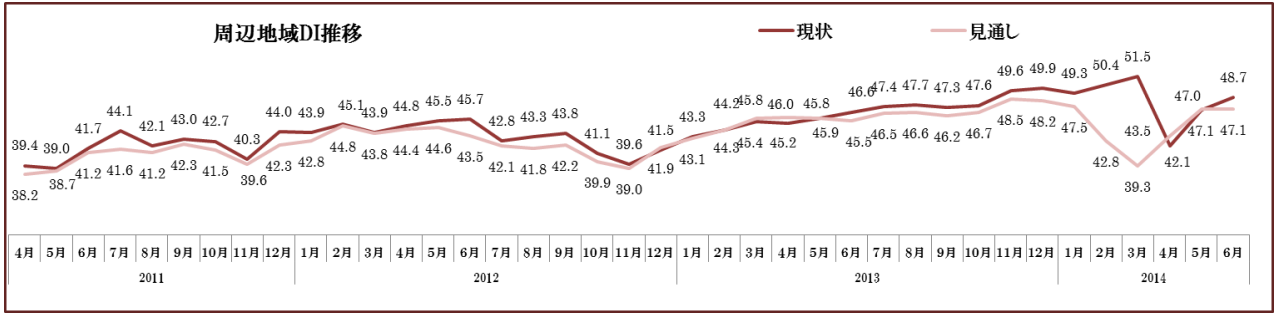
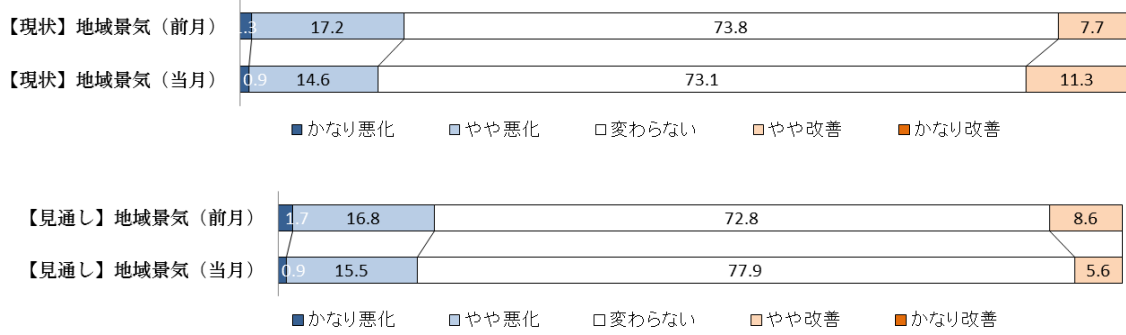
③周辺競合状況 DI

引き続き横ばい傾向が続き、改善の動きは見られず



④周辺地域景気判断 DI

現状判断は改善続く、見通し判断は横ばい

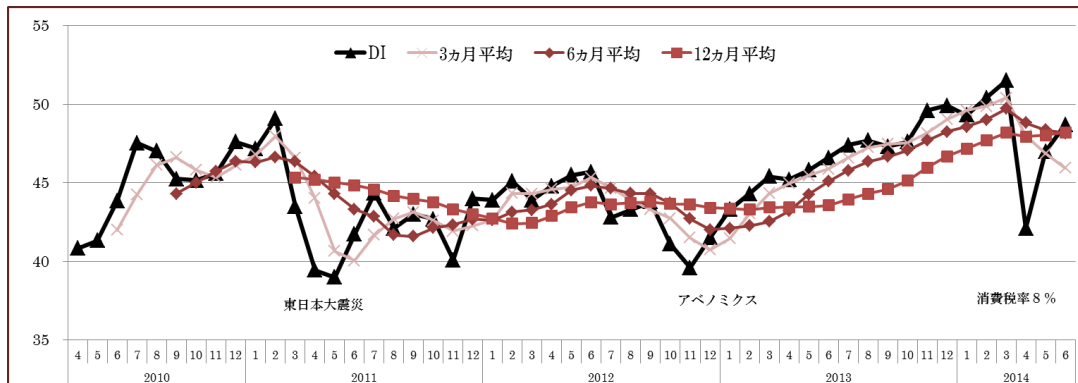


長期傾向（周辺地域景気判断 DI）

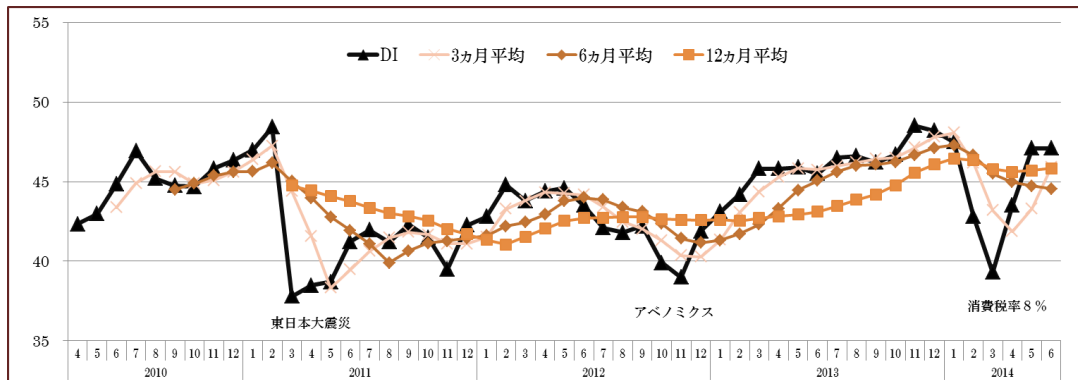
消費税率引き上げの影響を受け大きく下落した現状判断は、前月から改善が続き、中長期移動線付近まで回復をみせている。一方で見通し判断は、再び中長期線を上回る水準で横ばい推移となった。

現状、見通し判断ともに長期傾向（12か月平均）はやや上向きでの推移となっているが、現状判断に比べ見通し判断の回復に勢いは弱い状況にある。

現状判断（中長期傾向）



見通し判断（中長期傾向）



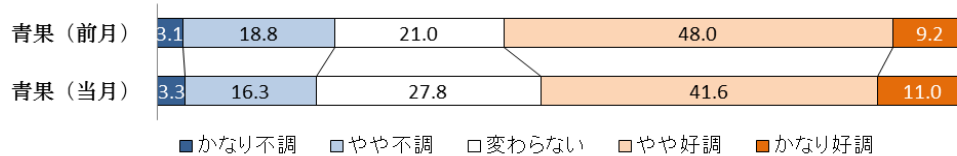
III. カテゴリー別動向

カテゴリー動向概要

前月とほぼカテゴリー動向は変わらず、生鮮品と惣菜が好調、一方で一般食品と非食品を中心としたカテゴリーは不調という傾向となった。

好調な生鮮品のなかでも、特に畜産は相場高にも支えられ引き続きかなり好調であった。青果と水産も好調、やや好調となっている。惣菜についても各社で取組みを強化しておりその成果により好調であった。日配は気温や天候要因も影響しやや不調である。一般食品は一部商品では駆け込みからの回復もみられるが、引き続き米や調味料が低迷した。非食品はたばこを中心として駆け込みの反動が残り、また他業態との競合も厳しく不調となった

【青果】 **好調** DI:10.2 (前月 10.4)



	好調コメント	不調コメント
青果	相場高、カット野菜、果物	果物、買い上げ点数の減少

【水産】 **やや好調** DI:5.5 (前月 5.7)



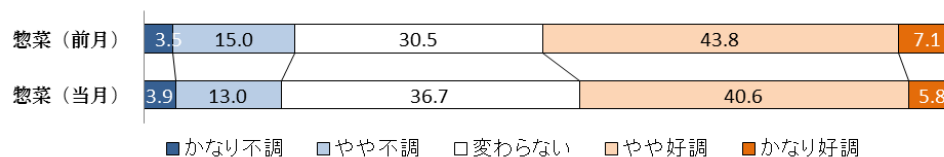
	好調コメント	不調コメント
水産	刺身類(まぐろ)、塩干、単価上昇	塩干、相場高、不漁、

【畜産】 **かなり好調** DI:25.0 (前月 22.1)



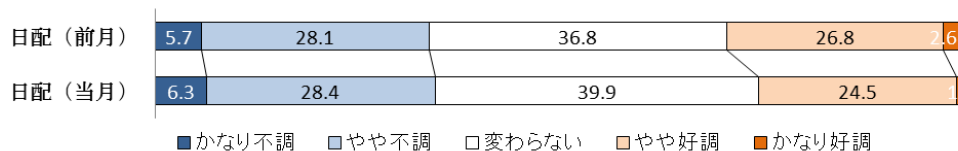
	好調コメント	不調コメント
畜産	牛・豚相場高、牛(和牛)、豚、鶏、焼肉	

【惣菜】 **やや好調** DI:7.9 (前月 9.0)



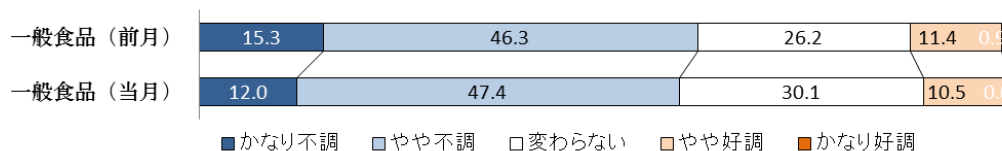
	好調コメント	不調コメント
惣菜	取組み強化(新規提案)	競合(他業態)

【日配】 やや不調 DI:-3.5 (前月-1.9)



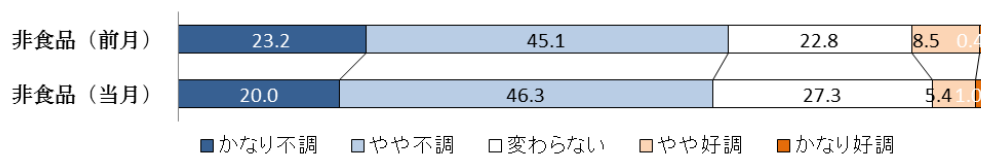
	好調コメント	不調コメント
日配	洋日配、季節商材(好天)、(たまご)、(冷凍食品)	価格競争、乳製品、納豆、アイス(気温低下)、パン

【一般食品】 不調 DI:-15.2 (前月-15.9)



	好調コメント	不調コメント
一般食品	菓子、嗜好品	米、調味料、価格競争、反動から回復遅

【非食品】 不調 DI:-19.8 (前月-20.5)



	好調コメント	不調コメント
非食品		他業態との競合、反動から回復遅、たばこ

() は少数コメント

DI による好不調判断

かなり好調: 20 以上 好調: 10~20 やや好調: 0~10
 かなり不調: -20 以下 不調: -20~-10 やや不調: -10~0

2014年6月キーワード TOP 3

1. 消費増税の影響(判断分かれる)
2. 生鮮品好調
3. 競合環境激化

スーパーマーケット景気動向調査

6月速報版集計 214社
 5月確報版集計 233社